ビームライン・実験装置 評定票

評価委員名	電子物性分科						
ビームライン名	BL-20A		ビーム	ライン担	当者名	伊藤健二	
課題数	過多	やや過多	(適切		やや過少	過少
混雑度	2 倍以上	1.5 倍から	2倍 1	(倍から1	.5 焙	0.5 倍から 1 倍	0.5 倍以下
主な研究手法、研	A しきい光電子	分光	分野を	リード、<	分野の早	T核、分野の一人、	分野外
完分野とビームラ イン担当者の位置	B 発光分光		分野を	リード、タ	分野の中	マ核、分野の一人、	分野外
付け	c		分野を	リード、タ	分野の中	7核、分野の一人、	分野外

ビームラインの性能等について

適切に保守、整備されて、本来あるべき性能を発揮しているか 取扱は容易か		5 フル性能 を発揮5 容易	ほぼ性能を発揮 4やや容易	3 まあ性能 を発揮 3 普通	2 改善の余 地あり 2 やや難	1 改善が必 須 1 難
取扱説明書は整備され	アルスか	5 充実	4 やや充実 (2 やや不足	1ない
性能・仕様等で特記すべき点、他施設と比較して特記すべき	アンジュレータ観点からは世界波岡型分光器で偏向部を光源とビームラインで	・ + 直入射型分 : 的なレベルの : は物足らない= : して、大きな;	光器の組み合; BL であった。 ユーザーにはji	わせが登場する 3 万程度の分解 適切な BL であっ	までは、分解 解能が得られて る。	能と光子数のおり、瀬谷一
改良・改善すべき点	分解能を向上さ光子数を向上さ					

実験手法のビームラインとの適合性・研究成果について

※1:光源、ビームライン光学系と研究手法は適合しているか。

**1: 元源、 E	ームフィン元子	糸と研究手行	はは適合している	// 3°		
	適合性 (※1)	5. 最適	< 4. 適切>	3. 妥当	2. やや不適	1. 不適
	研究成果	5.極めて高	い 4. 高い	3. 妥当	2. やや低い	1. 低い
手法 a	コメント、伸 ばすべき点、 改善すべき点	がスペクト		めている。従って	分解能ではなく、 て、研究の質を上に	
	適合性 (※1)	5. 最適	4. 適切	3. 妥当	2. やや不適	1. 不適
	研究成果	5極めて高	い 4.高い	3. 妥当	2. やや低い	1. 低い
手法 b	コメント、伸 ばすべき点、 改善すべき点		するため、大強 ろがある。高分質		あり、現在では分 どが望まれる。	解能を犠牲にし
手法 c	適合性 (※1)	5. 最適	4. 適切	3. 妥当	2. やや不適	1. 不適
	研究成果	5極めて高	い 4. 高い	3. 妥当	2. やや低い	1. 低い
	コメント、伸 ばすべき点、 改善すべき点					
	研究成果	5極めて高	い 4. 高い	3. 妥当	2. やや低い	1. 低い
総合評価	世界の状況と野の状況と呼吸してのようでは、どれてのライン性能ができませんではないである。というないは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで					

- 37 -

実験装置の性能等について

吴駅装直の性能等について							
使用している実験装置名(a)	期待分光用のチェンバーが準備されている						
適切に保守、改善されて、本来あるべき性能を 発揮しているか	5 フル性 能を発揮	4 ほぼ性 能を発揮	3 まあ性 能を発揮	 改善の 余地あり 	1 改善が 必須		
取扱は容易か	5. 容易	4.やや容易	3. 普通	2. やや難	1. 難		
取扱説明書は整備されているか	5. 充実	4.やや充実	3. 普通	2.やや不足	1. ない		
性能、仕様等で特記すべき点							
改良・改善すべき点							

	1					
使用している実験装置名(b)						
適切に保守、改善されて、本来な 発揮しているか		5 フル性 能を発揮		3 まあ性 能を発揮	 改善の 余地あり 	1 改善が 必須
取扱は容易か		5. 容易	4.やや容易	3. 普通	2. やや難	1. 難
取扱説明書は整備されているか		5. 充実	4.やや充実	3. 普通	2.やや不足	1. ない
性能、仕様等で特記すべき点						
改良・改善すべき点						

使用している実験装置名(c)					
適切に保守、改善されて、本来あるべき性能を 発揮しているか	5 フル性 能を発揮	4 ほぼ性 能を発揮	3 まあ性 能を発揮	2 改善の 余地あり	1 改善が 必須
取扱は容易か	5. 容易	4.やや容易	3. 普通	2. やや難	1. 難
取扱説明書は整備されているか	5. 充実	4.やや充実	3. 普通	2.やや不足	1. ない
性能、仕様等で特記 すべき点					
改良・改善すべき点					

今後のビームラインのあり方について

今後のヒームフィン0	りあり方について
今後の計画の妥当性 について	極紫外領域では、アンジュレータ+直入射型分光器が世界の定番になりつつある。 PF は 2.5 GeV でヒートロードが辛いが、このような BL を建設することはできる。 直線部の増強に伴い、このような BL が実現することが望まれる。 現に、BL20A で行われている研究は、分解能、強度の不足がその発展のネックとなっ ている。
今後5年間に	高い優先度で 余裕があれば 予算投入 予算投入 現状維持 投資を抑制す 転用の道を探 べき すべき
その他今後の計画に付いての意見	PFにおいて直入射領域で実用的な唯一の BL との評価もあるが、現状のビームラインの改善ではそれほどの性能の向上が期待できないので、Top レベルの研究を出すにはアンジュレータビームラインへの移行の可能性は考えないといけない。 しかし定常的なユーザーがいて、研究成果がほどほどに出ている現状からは、それまでの期間は、現状維持が適切であると考える。 このエネルギー領域は強度の点、分解能の点で挿入光源ビームラインに負ける。早い時期に専用化をして特定分野で集中的に成果を挙げることが望ましい。長期的には、ある分野で成果が挙がったら別の分野に切り替えるといった方法もあり得る。もっと成果を挙げて欲しい。 これまで偏向部からの放射光を用いて優れた成果をあげてきている。今後、ビームラインの性能向上なくして、これまでのactivityを維持してゆくのは困難であろう。 ALS、LUREの現状と比較して、試料位置でのエネルギー分解能、光子数が著しく不足している。 This beamline has excellent performance compared with similar bending magnet beamlines elsewhere. Its ability to function as a scanning instrument makes it ideal for experiments on fluorescence from superexcited states, and this work is world class. For threshold PES a resolving power in the region of 105 would be desirable in order to be competitive, and it should be possible to achieve this by moving the instrument to an undulator beamline, with a revised layout for the premirror system. It would probably be more practical to transfer this instrument to an undulator than the normal incidence monochromator on BL-12B.